

陸の孤島に浮かぶSS

菱華石油サービス株式会社

神戸ポートアイランド給油所

内 芝 知 憲

平成7年1月17日午前5時46分、阪神間を襲った大地震。ほんの何秒かの地震が、我々の生活をこれほどまでに変えてしまおうとは。私の想像を遙かに超えた、まるで映画の世界の出来事のようなであった。一瞬にしてあたりはがれきと悲しい声で埋め尽くされてしまったのである。

一生の間に一度あるかどうかの大地震を、私は西宮の自宅で体験したわけであるが、生まれて三十余年、今まで味わったことのない恐怖であった。

私が初めて弊社の神戸ポートアイランド給油所に行ったのは、地震があってから2日後の1月19日のことである。何しろ交通網は寸断されており、幹線道路は大混雑で通勤手段のない私は、生まれて初めてミニバイクに乗り、ポートアイランドに足を踏み入れたのである。ポートライナーと神戸大橋が不通になっていたこの時、ポートアイランドはまさに陸の孤島と化しており、島全体もさることながら給油所を見た瞬間は、ただ、あ然とするばかりで言葉にすらならなかった。フィールド内は液状化現象により一面泥だらけ、防火塀は波打ち、販売室はまわりが地盤沈下しているせいであたかも盛り上がったかのように突き出して見えるのである。

島内に住む従業員が、震災後も毎日、給油所内に駐在しており、電話では状況を把握していたつもりではあったが、まさかこれほどまでになっているとは予想できず「もうこれ以上この地で商売することは不可能だなあ」というのが第一印象であった。それから1月28日に仮営業にこぎつけるまでの10日間はあらゆる面で苦悩の日々であったと記憶する。

復旧作業に取りかかる前に、一番心配であったのが地下タンク、通気管、注油管及びサクシオンパイプ等の油の配管に関するものが使えるのかどうかの点であった。何故なら、給油所にとって油の配管は人間で言えば血管のようなものであり、この個所に欠陥があれば手術は相当大がかりなものになるからである。もちろん、この時点で、水道、電気等のライフラインは寸断されたままであったが、私にとってそんなものはどうでもよいような、取るに足らないものであるようにさえ感じていた。1月19日以降、私は毎日この変わり果てた給油所に足を運んだが、成す術がなくなただひたすら復旧作業が始まるのを待つばかりであった。このポートアイランドには給油所はこの一軒しかなく、とにかく一日も早い営業再開が我々の義務であると考えていた。

震災から約1週間後の1月25日にやっと始まった復旧作業は、正味2日間で終了したが、当時の交通事情や人手不足を考えると奇跡的な速さであったと思う。

復旧作業は、まず、液化化現象により空地地盤面に吹き出した泥の除去作業から始まった。ユンボ1台、オペレーター1人、人夫8人で丸2日間。深いところで約50cmも積もった泥は水分を含み、スコップ一杯を一輪車に積むだけでも慣れていない私には大変な重労働であった。他にすることがなく、見ているだけでは申し訳なく思った私は少し手伝っただけであるが、翌日は足腰がガタガタで布団から起き上がれなかったことを覚えている。また、何しろ水が出ないので、少しでも風が吹こうものなら砂が舞い上がり、耳や口、鼻の中は砂だらけになったものである。

泥の除去作業と並行して、一番心配であった油の配管の点検が進められていた。点検方法は、減圧検査を採用して行われた。タンク及びパイプ内を減圧し、急激に圧力が上がればどこかに異常があるというものである。

何せ、10基の地下タンクを持つ給油所であるので、その検査を全て終了するのに2日間を要した。

結果、不幸中の幸いで、灯油のサクションパイプに異常が発見されただけで他の地下タンク及びパイプには全く異常がなかったのである。これで電気さえ通ればガソリンと軽油の販売が再開できる見通しが立ちホッとしたものである。

ただこの時期、灯油は最需要期で、島の住民の生活を考えるとどうしても灯油を販売する使命が我々にはあった。結局、営業再開後、ミニローリーを利用した販売を開始したわけであるが、島の外の別の給油所にまで灯油を汲みにいく手間は、ひどい時で往復3時間もかかるほどの労力を要するものであった。

1月26日、営業再開の最後の難関である電気の検査が行われた。電気の配線は、全て地下を通っており、これだけ地盤沈下してしまえば、恐らく全て断線しているであろうというのが大方の予想であった。知ってのとおり、計量機及びPOSを作動させる為には、100V、200VとPOSの信号線が全て通電していなければならないわけで、この内どれかでも欠けてしまえば、給油所として成り立たないのである。まず、100Vの検査が行われた。予想どおり、通電しておらずガッカリしたが、続いて行われた200Vの動力の検査では異常がなく、又一番弱いと思われていたPOSの信号線も奇跡的に生き残っていたのである。つまり、100Vの仮配線さえ引き直せば、営業再開の見通しが立ったのである。簡単に言ってしまったが、この工事は、電気業者の方が5名で夜中までかかる程の大きかりなものであった。現在は、地下を通っていた100Vの配線をキャノピーを這わすことにより空中をとばしている。少々不格好ではあるが、営業には全く問題がなく現在も正常に機能している。

こうして復旧作業は完了し、1月27日に消防検査を受け、あくまで仮営業ではあるがついに1月28日営業再開にこぎつけることができた。現在も建物等は震災直後のままであるが、こうして営業を再開できたのも、全ての業者を手配してくれた三菱石油(株)殿をはじめ、昼夜惜しまず作業にあたってくれた各業者の方々、又暖かくご指導くださった水上消防署の皆さんのおかげと心から感謝してお

ります。

これから、私達の給油所も、美しかった神戸の町も震災前の状況に戻るにはかなりの年数がかかると思いますが、しっかりとこの地に足を付けて頑張って商売を続けてゆこうと思っています。

最後になりますが、神戸復興のために、我々の会社は勿論、私個人としても少しでもお役に立てれば幸いです。

営業を再開した S S

